令和 7 年（2025 年）5 月 20 日
子ども未来創造局保健スポーツ室

箕面市障害者市民施策推進協議会

案件：箕面市民温水プールの整備について

このたび、西ノ池跡地（箕面市立第二総合運動場の東隣接地）において、箕面市民温水プールを整備する運びとなりました。

本施設は、大阪府福祉のまちづくり条例をはじめとする関連法令を遵守し、公共の温水プールとしての要求水準を満たすことを基本要件としつつ、民間のノウハウを活かした整備・運営を行うために、設計・施工・運営を一括で行う DBO（Design Build Operate）方式を採用しました。

公募型プロポーザルにより整備運営事業者を募ったところ、3つの事業者グループから応募があり、令和 7 年 4 月下旬に行われた選定会議の結果、株式会社関西テレビライフ（設計企業：株式会社ラフト、建築企業：春名建設株式会社、維持管理運営企業：株式会社関西テレビライフ）の事業者グループが選定されました。このグループは、K T V 石橋店の改修実績があるチームです。

株式会社関西テレビライフの事業者グループから提案された施設は、平屋建てで延べ床面積は約 1,360 m²であり、施設構成には、25m×6 レーンのメインプール（水深 110cm）、サブプール（水深 75cm）、車椅子による入水も可能なプールのスロープ、さらには多目的に利用できる談話室などが含まれています。また、更衣室やトイレについては、車椅子利用者にも配慮した「誰でもトイレ」を設置するだけでなく、介助者と一緒に利用できる広さを確保した「誰でも更衣室」を設けるなど、すべての利用者が尊重され、排除されることのない施設づくりを目指しています。

施設の開業は令和 8 年 6 月頃を予定しており、設計期間は令和 7 年 8 月中旬頃までを見込んでおります。

本日のご確認事項：箕面市民温水プールにおけるバリアフリー施策

1. 誰もが安全で快適にアクセスできる施設

本施設は、すべての利用者が安全かつストレスなくアクセスできるよう、敷地内外の動線設計にバリアフリーの視点を導入します。具体的には、段差のないアプローチを設け、視覚障害者向けの点字誘導ブロックを設置します。また、敷地内の歩道は広め（3.5m 以上）に設計し、自動ドアを採用することで、車椅子利用者や視覚障害者がスムーズに出入りできるよう配慮し、誰もが安心して移動できる環境を整えます。

2. バス待機エリアの整備

高齢者や障害を持つ利用者にとって、施設までの移動は大きな負担です。そのため、敷地内にバス待機エリアを設けることで、送迎車や介護タクシーなどの円滑な乗降を可能とし、移動の負担軽減を図ります。待機中に過ごしやすい屋根付きのスペースやベンチなどを整備することで、あらゆる利用者にとっての「迎えの安心」「出迎えの快適さ」に配慮した計画です。

敷地内の車椅子利用者向けの駐車場は極力玄関に近い位置に計画しています。車椅子利用者向け駐車場から玄関までは、プール施設という特性上高低差がありますが、玄関横にスロープ（傾斜は1:12以下とし、手すりは高さ85cm）を設け高低差を解消しながら、車椅子利用者が最短距離で施設にアプローチできる動線計画としています。

3. ユニバーサルプールの設計

本施設は、多様な利用者が等しく楽しめる「ユニバーサルデザイン」の考え方を採用した温水プールであり、車椅子利用者や視覚障害者に物理的に配慮した設計としています。プール室においては、水深110cmのメインプールと75cmのサブプールの両方にアクセスできるプールスロープを設けています。スロープの幅は1.2m以上で、手すりは高さ85cmで設置し、車椅子利用者や視覚障害者が安心して入水できるよう環境を整備しています。また、「誰でもトイレ」や「誰でも更衣室」は広さを確保し、車椅子利用者や介助者が共に利用できるよう設計されています。利用者一人ひとりの尊重を前提に、誰もが「排除されない」施設づくりを目指しています。

4. 見守り体制による安全性の確保

利用者の安心・安全を守るため、施設全体にわたる「見守り体制」の充実を図ります。具体的には、監視スタッフの常駐や緊急時に即対応できるコールボタンの設置、AEDの配置、バリアフリー対応の避難経路などです。また、スタッフへの障害理解研修や接遇教育を通じて、利用者との円滑なコミュニケーションと精神的ケアにも対応する予定です。こうした体制により、障害や不安を抱える人も心地よく利用できる環境を整備します。